



## 巡回映画

団塊の世代である私の小学生時代、学校で巡回映画が行われていた。映画は年数回あり、偉人の伝記ものや短編映画、ニュース

映画などが上映されてきた。

映画のある日は講堂のすべての窓に暗幕を張り、にわか映画館ので

き上がり。テレビはまだ普及していなかった時代、映像に接する貴重な機会として毎回楽しみに待っていた。

そんなある日、『尾瀬の四季』が上映された。春、雪が解け、草木は芽吹き、やがてミズバショウやニッコウキスゲが咲き、白い木肌のダケカンバが青空に映え、木道にリユックを背負ったハイカーの列。季節は移り木々は紅葉し、



宝田町  
松田 五郎さん

長い冬へと向かう。そんな記録映画であった。しかも総天然色（カラー）であった。当時、映画はほとんどが白黒であった。私は尾瀬の自然とその映像の美しさにすっかり取りつかれ、気がつくくと全身鳥肌だった。その鮮烈な映像は、少年の私を大いに魅了した。

時は流れ、東京で過ごした学生時代、初めての旅で尾瀬をめざしたのはいうまでもない。成人して草花を愛し、自然保護の仕事に携わったり、何よりも山が好きで、今でも登山を続けている。今振り返ると、それらの原点はあの巡回映画にたどり着く。

次回は、那賀川町の住友宣子さんをお願いします。

## 市民文芸

### 短歌

阿南市春季短歌大会選

井上 正恵

かぎりなく文明を追ふ人間の危ふさを鳴きうぐいすの澄めり

徳川 明美

甲高い園児の声の聞こえるラッパ水仙タンゴを踊る

小熊 節子

暮れなずむ部屋にほのぼのの灯がともればおぼつかかなげな木彫のくまは

横山みつ枝

マチュピチュへ行きあぐむ友喜寿近し今行かねばと軽く背を押す

賀上 花子

如月の凍てつく寒さに籠りいて種いも横目に気のみ焦る

黒部 君代

亡姉編みし靴下洗う指先に再び巡る春の愛しみ

小野スミ子

一円でなにも買えない一円がなければ買えない消費税上る

### 俳句

阿南市俳句連合会選

品川 重晴

揺れてゐることが安堵や秋桜

目の曇り次才に澄みて今朝の秋

田村 英人

御墨付得て昼酒の秋祭

青木 慧

にぎやかな課外授業や野菊晴

阿部 勝代

平和とは空の青さに赤とんぼ

谷中 紫扇

赤蜻蛉一瞬宙に静止せる

山根 溪風

秋あかね風の合間を飛んでいる

長谷川葉月

甥逝きて貰いし籠に柿入りぬ

古川北斗星

秋の雲大いなる空覆ひけり

小西 晴美

気の早き鴨も来てゐる中洲かな

末岐 美子

### 川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

スキヤンダル追って取材の目が光る

酒本 敏博

美人には棘があるのか男来ず

佐野 智子

ハンカチを探す余裕のある涙

原 公美子

もつともつと押ししてください道半ば

野村 敏子

勢いが実力以上プレイする

持木 寿栄